

耐火物製造業における死亡災害事例（1999-2020年）

年	月	発 生 時	死亡災害事例	起因物 (小)	事 故 の 型	労 働 者 規 模
1999	4	9 ～ 10	原料の受入設備で、フレコンバッグ入りの原料をホッパーへ投入するためテルハでフレコンバッグを吊り上げていたときに、フレコンバッグの繊維ベルトが切断したためフレコンバッグの下敷きとなった。	611	4	50 ～ 99
2000	7	21 ～ 22	セラミック工場焼成ラインの台車と台車の間に取り付けているスペーサー（長さ約25cm、直径24mmの棒）の取り外し作業中に台車に挟まれた。	229	7	30 ～ 49
2002	7	3 ～ 4	7tトラックにセメント製品を積み国道を走行中、対向の乗用車が縁石に衝突した反動で対向車線より飛び出してきて衝突した。	231	17	30 ～ 49
2003	3	8 ～ 9	集じん機を撤去するため、フォークリフトのバックレストと集じん機をロープで固定してパレットに載せる作業中に、集じん機が倒れたためパレット位置を調整していた者が下敷きとなった。	222	5	100 ～ 299
2003	7	22 ～ 23	関連会社との打合せ会のため中国に3名が出張し、途中で中国の貿易会社の社長ら3名と合流し、6名が乗った自動車で高速道路を走行中、運転手が前方に無灯火で停車していたトラックに気づいてハンドルを急に左に切ったところ、車の後部右側がトラックと衝突し1名が死亡した。	231	3	300 ～
2005	10	18 ～ 19	耐火れんがを製造するための成形機械の型交換作業中、上下の型の間に入って型の調整を行っていたところ、上型が下降し、挟まれた。	169	7	50 ～ 99

2007	1	5 ～ 6	工場内で、作業を行っていたところ、具合が悪くなり、救急車で病院に搬送されたが死亡した。	921	90	30 ～ 49
2007	12	2 ～ 3	外壁材の混合作業のための作業ステージ上（高さ約2.6m）で、材料荷揚げ口のスライド式安全柵を閉めようとしていたところ、安全柵ごと地面に墜落した。	419	1	300 ～ 499
2014	12	13 ～ 14	炉から銑鉄を取り出す取鍋を整備場でメンテナンスしていたところ、取鍋の取っ手が倒れ、被災者が下敷きとなった。	391	5	10 ～ 29
2014	7	23 ～ 24	生産ライン下部に位置するベルトコンベアとローラーに巻き込まれた状態の被災者が発見された。	224	7	100 ～ 299
2016	10	16 ～ 17	被災者は担当する熱処理炉を巡視中、稼働中の2号炉が突然爆発し、熱風を浴び、首から上がⅡ度、首から下がⅢ度の火傷を負った。	341	14	100 ～ 299

出典：[https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen\\_pg/SIB\\_FND.aspx](https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SIB_FND.aspx)(職場のあんぜんサイト)

[https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206\\_03.html](https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_03.html)に戻る。